

小木 喬(おぎ・たかし)

1、プロフィール

教育者。文学研究者。県立野辺地高校・弘前高校・青森高校長を歴任。退職した昭和 42 年『鎌倉時代物語の研究』で文学博士号を受ける。

<生没>

1906(明治 39)年7月 27 日 ~1990(平成 2)年3月7日

<代表作>

『鎌倉時代物語の研究』『散逸物語の研究』『いはでしのぶ物語』『新葉和歌集』
随筆集『くさぐさのこと』

<青森との関わり>

旧制青森中学校卒業。昭和 24 年に青森県教育委員会に入る。43 年から長く市民図書館で「源氏物語を読む会」開催。

2、作家解説

裁判所判事小木茂三郎の次男として、明治 39 年、天の橋立のある京都府与謝郡文珠村に生まれた。父は金沢の出で、五所川原在任中に弘前藩士族佐藤薨の長女つやと結婚し、2男4女をもうけた。父が北海道に転任したので、喬は後志支庁岩内町小学校に入学。大正9年、旧制青森中学に首席で合格。以後一高・東京帝国大学文学部国文科に進む。

昭和6年に卒業して岡山・山口・広島・奈良・山口と中学教師や視学・教授を歴任、24 年に青森に帰る。教育委員会に入り県立野辺地高校・弘前高校長を経て42 年に青森高校長として退職。同年『鎌倉時代物語の研究』(東宝書房、昭 36・11・10)で文学博士号を受ける。その後研究生活に没頭。『散逸物語の研究—平安・鎌倉時代編—』(笠間書院、昭 48・2・28)『いはでしのぶ物語—本文と研究』(笠間書院、昭 52・4・30)『新葉和歌集—本文と研究』(笠間書院、昭 59・3・30)を上梓した。

近・現代文学との関わりは、中学高校のころ、一時鳴海要吉の口語短歌誌「新緑」の会に加わったことがあり、退職を記念して刊行された随筆集『くさぐさのこと』（津軽書房、昭 42・11・15）に、一部の歌が付録として収録されている。

3、資料紹介

○『くさぐさのこと』

図書 随筆集

1967(昭和 42)年 11 月 15 日

190mm×135mm

退職記念の書として千葉寿夫ら教育関係者が委員会を組織して刊行。県教育庁時代及び各高校長時代の式辞等を収録。その他生い立ちを記した「思い出すまま」や付録として「短歌」を収録している。